

伊勢市地域審議会会議議事録
(平成19年度第3回二見地区地域審議会)

1. 日 時 平成19年12月11日(火)
19時~21時 公開による
2. 場 所 二見総合支所3階第1会議室
3. 協議内容
市長の諮問(新市の一体感の醸成)に関する審議
その他
4. 出席委員 松本 徳男委員、濱千代 利弘委員、松本 誠委員、
奥野 雅則委員、中村 恒委員、橋本 清美委員、北岡 孝敏委員、
宮後 朝訓委員、柏端 長一委員、須崎 京子委員、八木 直己委
員、濱條 幸久委員
5. 欠席委員 北井 伸治委員、北村 峯記委員、酒徳 孝委員
6. 出席職員 二見総合支所長、二見地域振興課長、係
7. 傍 聴 人 0名
8. 内 容(概要)

新市の一体感の醸成について

・地域振興課長：新市の一体感の醸成のために二見に住む私たちがど
ういうかたちで伊勢市の観光振興に関わっていけば良いのかという
ところがテーマになるかと思いますので、二見地域でできることはど
ういうことか。二見地域が行政にしてほしいことはどういうことある
のか。前回提出いただいたレポートを基に二つに区分けをしてみました。
三つ目に今、伊勢市の大きな事業であるフットボールビレッジ構
想、海上アクセスについて皆さんのご意見をいただき、地域審議会の
意見として提出したい。

最初に、前回の会議で宿題になってました「二見の中で何ができる
のか」について12項目あげました。この他にもあると思いますが、
今日はこの資料に沿って進めたいと思いますがいかがでしょうか。

適時、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

それでは、伊勢市の観光振興において二見地域でできることにつ
いて、遷宮という好機を迎えましたが一般客や修学旅行客の宿泊客が減
ってきている現状を踏まえて観光業者の意識改革が必要だということ
について意見をいただきたいと思います。

・委員：私は二見町へ戻ってきたのが7年半くらい前になるがそれま
で観光業とはまったく違う出版社に勤務していたので旅館を継ぐ気持

ちも無かったので観光に携わる考えは無く社会生活をおくっていました。そして、帰ってきて最初は、どちらかという外様の目で見えてしまう。26年間二見を離れていたの、言いたいことが言えたところもある。おかしい慣習が残っていたり、伝統をうまく生かしていないところがある。それを旅館や地元観光業者も思っている人は沢山いると思うが、中々アクションになって見えてこない。前回の会議で、観光に従事している人達は、何処を目指しているのか、どういう考えを持っているのか、まったく顔が見えてこないという意見をいただいたが、そのとおりだと感じている。旅館をはじめ観光に携わる方それぞれにいろんな問題を抱えているのは分かるがイベントなり企画を持ちかけても、うちは出来ないということになり、他地域の人が茶屋地区での活動に参加しているのに積極的になるように意識改革が必要と感じている。だから、他地域からの反観光意識もあって当然かなと帰ってきたとき思いました。こうした姿勢を改めていくことが徹底されていないのが現状であると自己分析しています。

・委員：旅館や観光関係者が何でもいいから一つになれることが一番大事だと思う。

・委員：おひなさまめぐりのイベントが今度で4回を迎えます。これは、地元及び地元以外の地域の人々の沢山の協力によってイベントとして成功しているのではないかと。内部のネットワークが徐々に広がってきているが、まだ温度差がある。

・委員：観光関係者が何かの事業で一緒になってやったこと、良かったと思うことが一つあれば変われると思う。それには、体験学習が良いのだが長続きしにくい。しかし、「伊勢型紙」なら絶対によろしいかと思う。簡単なものなら30分で作れます。教室になる場所があれば、初めてでも簡単にでき、準備も楽、長続きできる、人数消化もできるし、伊勢の名もあってこれ一つに絞っても良いと思う。修学旅行でも一般客でも作品を代えればよい。これは、鈴鹿の青少年センターでも長い間続いている例もある。一つでも皆で一緒になって出来たという達成感を味わえば、それが突破口になって輪が広がっていく第一歩になる。地引網体験では、天候、季節に左右される問題があり、オールシーズンできるものが良い。

・地域振興課長：例えば、意識改革を行うとありますがどういう形で行うか。具体的に加えたほうがより答申の意味があると思うので皆さんの意見を伺いたい。

・委員：意識改革だけでは駄目だ。もてなしの心を醸成するためには

どういうアクションを起こすかまで示さないで勉強会までした意味がない。伊勢には観光客が600万人来るとのことだが、伊勢の観光を根本的に考え直して、人が来る政策だけでは駄目。意識だけでは、理屈も同じことで、何か一つでも行動に出すことが重要。それが、起爆剤になり変わっていくはずである。

・委員：言われるように徐々に成功しているメニューとして、「おひなさまめぐり」があげられるのではないかと。

・地域振興課長：「おひなさまめぐり」の取組がなかったら今の二見は、もっと苦しい状況になっていたと思います。経済効果もあるが一番大事なことは地域の皆さんの思いが高まって来ているのは事実である。先日、旅館組合、観光協会の方々に集まっていた際に、これからの二見は「株式会社二見」を創らなければ生き残れないのではないかと話がありました。まさしく、思いを一つにしていけないと、個々にしては、今後この業界で他に太刀打ちできないのではないかと。何か遷宮までに進めていかなければならない。それまでに土台作りが必要である。また、地元の景気が良くなれば後継者が戻ってくる可能性も見込めるようになるのでは。一番大事なことです。せっかく旅館等を紹介しても接客態度が悪くて好印象が得られなかったということが聞かれる。学習会等もされていると思うが弱いところがあると思うので季節的に雇用される人も含めて学習する機会やシステム作りをしていく必要がある。

・委員：従業員だけではなくオーナー、及び自治会、二見町民としても必要なことですね。

・地域振興課長：観光資源の掘り起こしをして観光振興につなげていくという意見もいただいております。

・委員：旧二見町の時代に宮川流域エコミュージアム全国大会の案内人をしたときに意見交換会で海苔養殖業者の機械を見学、時下に話を聞いたのが一番であったという参加者がいました。ありきたりの観光では、駄目だと感じ、視点を変えればおもしろい観光資源となるのかと感じました。二見は、海、山、川があり自然に恵まれているのでいろんな角度から観光誘致につなげる材料の掘り起こしができると思います。

・委員：観光地はいかにして人を呼ぶかということに第一にめざしているが、伊勢市は年間600万人の観光客が来てくれるから、その後の手段をどうするかである。単独ではできないので、旅館組合、株式会社二見とか一体となって、共同の施設等をつくるべきである。何

か行動を起こすべきだ。意識改革だけで済んでは駄目だ。

・会長：今までの二見の観光というのは、学生を主な対象としてきており一般客に対する意識が少なかったのではないかと思われる。

・地域振興課長：各地区の委員さんがみえますので意見どうですか。

・委員：池の浦の旅館について、経営者が替わり観光客に対する扱いが変わったという意見も聞く。また、池の浦の景色は推薦できます。

・委員：地域のものづくりとして夫婦岩の注連縄を作る作業があります。年に3回作ります。1日神領民の方からの注連縄に関する質問が多かった。既成のものでない観光資源の掘り起こしが重要だと感じました。

・委員：11月23日に旅館街の数名の方が主になって会を立ち上げ、名勝二見浦の海岸の清掃を定期的に月1回行います。こういう思いが大事ではないかと考えます。

・委員：二見の国道沿いを主として、農地に雑草等が生い茂り管理状態が非常に悪いように思う。二見の町全体を観光地として綺麗にしていけないとイメージダウンになる。また、補助整備された農地が荒れているのは何故なのか。

・委員：西区では、区より遊休農地の地権者へ依頼して遊休農地活性化事業で補助金をいただき農免道路周辺の農地へ蓮華草の種を3反ほどまきました。

・会長：補助整備された農地は、耕作しているはずであるが、高齢化や後継者がいないため、他の耕作者へ委託したりしているが限度がある。地域で共同により耕作、経営をしていかないと解決しない問題である。

・地域振興課長：町なみを見ていただくなかで「せこ道」にガスボンベ等が時下に見えないよう改善するなど景観維持を個々に出来ることから始めるように推進していく。

また、おひなさまめぐり等のイベントの相互発展のため他地域と広域的に連携を行う。旅館における地震、津波発生時の対応マニュアルを行政と共同で避難所等のマップ作成も含めた対応が必要である。

二見の地産品を生かした商品づくりを行い旅館や飲食店で提供する。修学旅行の体験事業メニューを作るとして、最近では、いろんなところで体験学習が盛んに行われてますが、町ごと体験館化して選択できるようにしてはどうかという意見が出てます。旅館組合でも課題として検討しているようです。伊勢型紙の提案をいただいています。他に提案等あればお願いします。

・委員：体験事業として「岩戸の塩」は、自然塩でして一般塩に比べて摂取すると有害である塩化ナトリウムは2割程少なく、ミネラルが多いと言われ、歴史的にも二見は伊勢神宮と塩の関わりは大きいことから提案したい。本とかテレビ放送も既にされていて、平成15年9月に三重ブランドとして申請をしたが商品そのものは良いが、組織として未整備のため落選してしまった経緯がある。

・委員：煙とか環境問題は、どうですか。

・委員：現在、大量に作ってないので大丈夫である。

・委員：いろんなイベントや行事が別個に行われており、もっと連携なり集約して行った方が効果があると思う。

・地域振興課長：イベントカレンダーを作成して周知徹底をして実施することが重要だと考えます。

続いて、伊勢市の観光振興において二見地域が行政にしてほしいことについて。まず第一に市内観光地間の情報交換の場がないということで、同じような行事を別個に行っている場合があるので全体的な情報提供する場が必要であり、カレンダー等の作成を提案。次に、市長のマニフェストにもありますが、JR二見浦駅前は、二見の玄関口ですので「花を植える」などでも良いが殺風景さを改善してほしい。また、町並み環境整備事業で整備を行ってきた景観地域の保存と活用をしていただきたい。

以前、観光遊覧船があったが、海上アクセス整備により神社港から宇治山田港湾を整備して海から二見浦を見る観光ルートの開発をしてほしい。伊勢市駅から二見方面への近鉄とJRの連絡調整をお願いしたい。無理ならば、旅館等が共同でマイクロバスを出せないものか。また、JR汐合鉄橋で強風のため不通になることが多いため改善していただきたい。

次いで、賓日館の博物館としてのPRを徹底する必要がある。

・委員：お客さんへのPRは当然。まだまだ、地元住民やタクシー等の関係者も認知不足なところがあり、PR活動を市内へも強化していく必要がある。

・地域振興課長：続いて、ハード面の整備として「海水浴場記念館」「修学旅行記念館」「潮湯を生かした外湯」「西行記念館」等の二見の観光資源となる施設の建設を進めてもらいたい。「西行記念館」については、三交不動産により進めていただけるということです。

次に、お白石持ち事業にむけて今回の反省も踏まえて、伊勢・二見の神領地に宿泊してこそ1日神領民になれる旨のPRをして、是非と

も宿泊していただきたい。

次に、文化・スポーツなど各種団体の全国規模の誘致を勧めていただくことにより宿泊客を増やしていきたい。

以上のことが、今後二見地域が観光地として発展していくための重要事項としての提案をまとめたものです。これが可能であれば新市において二見地域が貢献できるのではないかとということを伝えていきたい。

・委員：防犯に関してですが、警察官が二見駐在所へ常駐していただけるように要望していただきたい。

・地域振興課長：引き続き、伊勢市の大きな事業である「フットボールビレッジ構想」と「海上アクセス」について、二見地域の委員さんのご意見を伺いたいと思います。

・委員：「フットボールビレッジ構想」は、採算がとれるのですか。

・地域振興課長：完成後の維持費は、年間2～3千万円。使用収入は1千万円ですので、1～2千万円のマイナスとなるが、経済波及効果が見込めるといふ議会等への説明です。二見地域へ宿泊をすれば、経済波及効果はあるが、宿泊施設を建設すれば見込めない。総事業費19億円の内、15億円は企業支出、伊勢市4億円の支出予定である。

・委員：宿泊施設の建設もあるのであれば、二見地域としては対抗案を考えねばならない。旅館業者等が勉強して積極的に対案を出すべきだと思います。

・地域振興課長：旧二見町時代に茨城県の羽崎というサッカービレッジを視察したことがあります。

・委員：そこは、町の大半がサッカー関連施設であり、各宿泊施設が自前のサッカー場を持っていて、一大合宿所になっている。サッカー場の維持管理を宿泊施設が行っているが、宿泊料金は、一般宿泊客でないのも食事も定食なので非常に安価で利用できる。伊勢市の施設がどこまで整備されて、どういう誘致、利用がされていくのか分からないので二見としても動けない現状にある。交通の便については、名古屋、大阪から2時間以内であるので、施設が整備されれば集客は可能だと思います。

・地域振興課長：ご遷宮を見据えた事業になると思います。二見としては、宿泊客をどう対処するかになると思います。

次に、来年春に就航予定の「海上アクセス」についてお願いします。

・委員：前回の会議のなかで、採算ベースは1日200人ですか。

・地域振興課長：最初は、150人でした。250人ぐらい見込める

であろうという発表でした。1日2杯で3往復、1便40人くらいです。

・委員：鳥羽からのときは、セントレア着が11時頃だったので利用出来なかったのも、運航ダイヤには注意してほしい。

・地域振興課長：発着埠頭の整備には、合併特例債約6億円を使います。

・委員：神社港に着いたお客さんをどのように誘致していくかまで考える必要がある。素通りのトイレット観光では、意味がない。

・委員：伊勢市全体としての受け皿、手段、手法を考えていくことが大事。

・地域振興課長：市長から諮問されてます新市の一体感の醸成について、本日の協議内容を基に二見地域については、観光サイドからの一体感の醸成を図るということで、市長へ答申するのは、来年3月頃になりますので、年明けに内容をまとめましたら皆様のご意見をいただきたいと思います。必要ならお集まりいただきご協力いただいで作り上げて行きたいと思えます。

以上